

榊原病院 Monthly

Vol.54
2022.march

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦 (むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

『EGUIDEプロジェクト』において当院の統合失調症治療が表彰されました

薬剤師 稲垣 雄一

先般、「EGUIDEプロジェクト」において、当院の2020年度の統合失調症治療がJump up賞2位（前年度からの改善幅の評価）、Good practice賞5位（総合評価）を受賞しました。

「EGUIDE」とは、全国の210以上の精神科医療施設が参加する「精神科医療の普及と教育に対するガイドラインの効果に関する研究：Effectiveness of GUIDeline for Dissemination and Education in psychiatric treatment」の略称であり、精神科医に対してガイドラインの教育講習を行い、ガイドラインの効果を検証するものです。

EGUIDEプロジェクト事務局は、「国立精神・神経医療研究センター」に設置されており、当院では毎年、当プロジェクトに係る処方調査に協力しています。各施設の匿名化された処方を集計して、診療の質（QI、Quality Indicator）が測定され、処方行動がガイドラインに沿っているか、客観的に評価されます。

今回の受賞における主な要因として、当院の「治療抵抗性統合失調症治療におけるクロザピン治療率の高さ」が挙げられます。

クロザピン（商品名クロザリル®）は、他の複数の抗精神病薬を使用しても効果がない「難治性の統合失調症（＝治療抵抗性統合失調症）」に適応を持つ唯一の薬ですが、「無顆粒球症・好中球減少症」という注意すべき副作用があるために、定期的な血液検査を行う必要があり、諸外国と比較して我が国のクロザピン使用率は低くなっています。統合失調症患者のうち20%～30%が我が国の治療抵抗性といわれていますが、治療性患者のうち、クロザピンが使用されているのは、わずか5%にすぎません。

統合失調症薬物治療ガイドラインでは、「治療抵抗性統合失調症患者に対して、クロザピンを使用すること」を強く推奨しています。当院はクロザピン治療専門病棟を有し、安全かつ効率的にクロザピンを使用できる環境を整えており、地域におけるクロザピン導入目的の紹介も受け付けています。

また、各病棟で、医師・薬剤師・看護師・作業療法士・心理療法士・栄養士・ソーシャルワーカー等を含む多職種でのカンファレンスを定期的開催して治療の見直しを図っており、カンファレンスでの情報共有・意見交換が処方の適正化に寄与しているものと考えています。

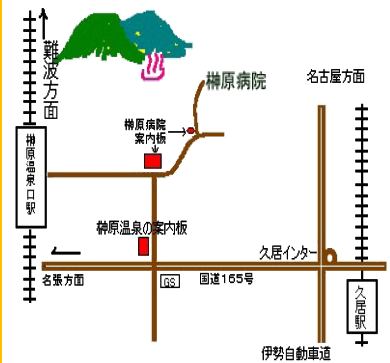
今後とも、より適切な治療を行えるようにスタッフ一同取り組んでまいりますので、何卒よろしくお願ひします。

診療科

- ・一般精神科
- ・アルコール・薬物依存症
- ・専門外来
- ・こころのリスク外来

病床数 175床

- ・精神科病棟 157床
- ・医療観察法 18床
- ・強度行動障害ユニット



電車・バス／近鉄久居駅下車 三交バス

（早稲町1丁）より

自動車／久居11ノ丁より

約20分

マイクロバス／久居駅より直通バス（約25分）



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていただけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和4年2月までに全症例は124例となりました。新規導入は12月0例、1月1例、2月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後には認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

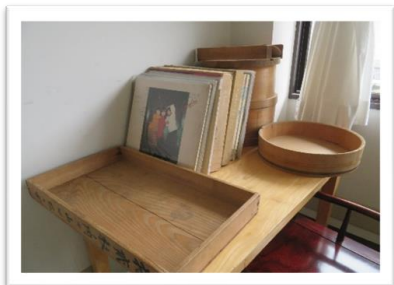
思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和4年1月21日～令和4年3月22日までの予定で、休止しています。再開は、感染リスクを考慮して決定します。ご利用の皆さまやご家族、また関係機関の皆さまにご不便をおかけしていることを、お詫び申し上げます。

通常ですと、デイケアは月、火、水、金の午前9:30から午後3:30まで活動しています。生活リズムをつける、気分転換、社会活動参加の準備、コミュニケーション等、それぞれの方のニーズに合わせて参加いただいています。SST（社会スキルトレーニング）、WRAP（元気回復プラン）、コグニサイズ、回想法、スポーツ、音楽鑑賞、手芸、アート等、様々なプログラムがあります。昼食時間を含めて6時間活動するデイケアと、食事なしで3時間活動するショートケアがあります。



思い出話を楽しむ「回想法」に使う道具です。懐かしいレコードがたくさんあります。



植物たちはすくすく育っています。今年も蘭の花が咲きました。

※ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。



栄養コラム



「日本食品標準成分表2020年版（八訂）」 たんぱく質の算出方法の変更

「日本食品標準成分表」は日常的な食品の食べられる部分100gあたりに含まれる栄養成分（炭水化物、たんぱく質、脂質など）やエネルギーなどの数値が掲載されているものです。昨年、改定版である2020年度版（八訂）が公開されました。

これまで、たんぱく質の算出方法は、食品中に含まれる窒素の量に、たんぱく質の量を推定できる一律の数字をかけるものでした。しかし、動物性食品と植物性食品において、たんぱく質をつくる要素が異なるため、一律の数値をかけることで過大評価・過小評価になる場合があります。このことからたんぱく質の部品の異なるアミノ酸を測って、それぞれのアミノ酸の量を合算する方法に変更しました。つまり、算出方法を変更することでより実際の摂取量に近い値になりました。